

笠松小コミュニティだより

第12号 令和4年1月1日 発行
笠松小学校学校運営協議会 会長 加藤司郎

笠松小学校はコミュニティ・スクール

コミュニティ・スクールとは、学校運営協議会を導入した学校のこと、学校が地域の方々と協働して子ども達の成長を支えていくための、法に基づいた仕組みです。

コミュニティ・スクールは、学校運営協議会の意見を得て、承認を受けて学校運営を進めます。学校運営協議会は、その責任を果たすため、子どもの実態や教育活動の状況を把握し、教育の在り方について研修をした上で、協議を行っています。

学校運営協議会には、「学習創造」、「自立共生」、「安全安心」の3つのパートナー部会で構成されています。今回はその活動の一環として実施したアンケート「子どもの夢」について紹介します。

笠小「子どもの夢」調査報告（実施日 令和3年7月）

学校運営協議会では長引くコロナ禍においての子ども達の現状を知ることを目的として改めて、将来の夢についてのアンケート調査を行いました。

学年別の主な仕事を掲載いたします。

- ・ 仲よし（パソコンの仕事、料理人、お寿司屋さん、バスケット選手）
- ・ 1年生（看護師、警察官、先生、パティシエ）
- ・ 2年生（お巡りさん、野球選手、先生、運転手、水族館の飼育員）
- ・ 3年生（自衛隊員、看護師、薬剤師）
- ・ 4年生（お医者さん、先生、料理人、保育士）
- ・ 5年生（医師、薬剤師、科学者、水泳選手、建築士）
- ・ 6年生（ラグビー選手、看護師、先生、医師、通訳、政治関係、女優）

- 一部を抜粋いたしましたが、未記入の児童が4割ほどみられました。どうすればより多くの子ども達に「夢」を持って貰えるかが課題として浮かびました。

校区町内会長さんと懇談会

いつも子ども達を優しく見守っていただいています、校区内の町内会長の皆様と、施設（図書室、トイレ、理科室など）や授業を視察いたしました。



校舎は大変綺麗に整理、整頓、清掃されておりました。子ども達は大変良い環境のなかで生活できており安心いたしました。

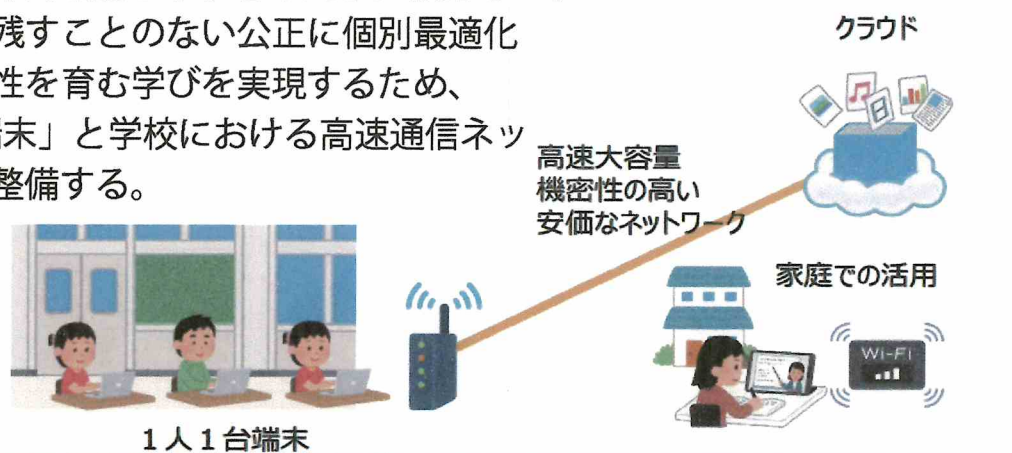
懇談会では子ども達の学力の向上や子ども神輿の要望があり、通学路の安全については、該当する町内会から関係各所に働きかけるとよいなど、多くのアドバイスをいただきました。ありがとうございました。

全ての人に国際的・革新的な入り口を

Global and Innovation Gateway for All

そのためにはテクノロジーの活用が不可欠 特に情報通信技術（ICT）の教育が必要 タブレット・パソコンを使いましょう

Society5.0 時代を生きる子どもたちに相応しい、誰一人取り残すことのない公正に個別最適化され、創造性を育む学びを実現するため、「1人1台端末」と学校における高速通信ネットワークを整備する。



(文科省資料抜粋)

ベストミックスの学び

今後、GIGA スクール構想（1人1台端末・高速ネット回線・クラウド利用の学習）を推進することで、課題解決や目的達成に向けたさまざまな情報を収集・選択・処理・分析して自分なりの解をつくり、文書や写真・音声・動画などで表現し伝える授業が展開しやすくなります。

この各過程での学びが子どもの意欲を高め、思考・判断・表現などの力を育み知識・理解を深めることは確かであると思っています。

さらにもう一つ、私が欠かせないと思っている学びに感覚を使った学びがあります。

体験や経験が十分でない子どもたちにとって、熱や硬さ、肌触り、におい、味などを感じ取る学びは、資料や映像での理解を超え、実感の伴った総合的な学びへと導くでしょう。

この構想には「これまでの我が国の教育実践と最先端のICTのベストミックスを図る」とあります。

羽島郡二町教育委員会教育長 野原弘康

【令和3年12月17日 岐阜新聞 素描より抜粋】